漁況・海況予報事業

（ 抄 録 ）

松原　久・小田切譲二・大友　守・尾坂　康
松宮隆志・川村俊一・伊藤欣吾・小泉広明

Ⅰ．漁　　況

ブリ・マグロ・ヤリイカ・ウスメバルの好漁、スルメイカ・マイワシ・マサバの減少が平成７年度の特徴的な漁況となった。

沿岸域におけるスルメイカ漁は、最盛期（７月～８月）には全海域で多く漁獲されたが、後半は低調であった。この結果、平成２年以降増加を続けていたスルメイカの年間漁獲量は、６年ぶりに減少に転じた。それでも年間漁獲量は１万５千トンを超えており、好漁には違いなかった。

日本海の定置網・底建網で漁獲されるマダイは４年連続の減少となった。

主として定置網で漁獲される日本海のブリは、前年度６年ぶりに減少したが、平成７年度は一転して急増し、過去６年中の最高漁獲量となった。

太平洋のまき網で漁獲されるマサバは、前年に引き続いて平成７年度も減少し、平成５年度の好漁が一時的なものであったことをさらに印象づけた。一方、日本海のマサバは、低い水準ながら増加傾向であった。

資源減少が危惧されている太平洋のまき網によるマイワシ漁は依然として減少傾向が続いた。

Ⅱ．海　　況

平成７年度の青森県沿岸の海況は、日本海沿岸定線観測・太平洋沖合定線観測結果から求めた対馬暖流（日本海）・津軽暖流（太平洋）の流勢指標を平年と比較する事により示す。

日本海及び太平洋の定線図を図１に、流勢指標の暖流幅、津軽暖流張り出し位置、水塊深度については、その模式図を図２および図３に示した。また、平年値との比較については、章末「参考」に示した。

１．日本海（観測月４～７月、９～11月、翌年３月　各月１回）

青森県沿岸における対馬暖流の各月最高水温は、ほぼ“平年並”～“はなはだ高め”に推移した。特に４月・５月・11月は“かなり高い”～“はなはだ高い”水温が観測された。一方、例外的に平年より“やや低め”だったのは、７月の表層のみであった。

暖流幅（100m層水温５℃の離岸距離）は、４月の艫作線で“やや狭め”だったものの、７月までは両線ともほぼ“やや広め”～“はなはだ広め”に推移し、９月には“平年並”となった。その後、暖流幅は10月～11月には逆に平年より“やや狭め”～“かなり狭め”となり、特に10月の艫作線での狭さは近年にないものであった。しかし、暖流幅は３月の観測では“やや広め”に戻っていた。

発表誌名：平成７年度漁海況予報事業結果報告書

艫作線での水塊深度（水温７℃の最深度）は、４月～６月に“やや深め”、７月・９月に“平年並”、10月・11月に“やや浅め”～“かなり浅め”、３月に“平年並”と、長周期の変動を思わせる推移となった。

艫作崎西方における対馬暖流北上流量は、４月～６月に“やや強め”～“かなり強め”、７月に“平年並”、９月に“やや強め”、10月・11月に“やや弱め”～“かなり弱め”、３月に“平年並”と、暖流幅や水塊深度と概ね同傾向で長周期の変動を思わせる推移となった。

２．太平洋（観測月　６月、９月、11月、３月）

平成７年度の津軽暖流の最高水温は、６月～11月は０m・50m・100m層とも“平年並”～“かなり高め”に推移したが、３月には50m・100m層で平年より“やや低め”となった。

尻屋崎線における津軽暖流の張り出し位置（津軽暖流水※の尻屋崎線100m深での東端位置）は、６月・９月に“平年並”、11月に“やや西偏”となった。３月は尻屋崎線100m深に津軽暖流水※は認められなかった。

尻屋崎線での水塊深度（水温７℃の最深度）は、６月が“やや浅め”、９月が“平年並”、11月が“やや浅め”となった。３月の水温は観測定線全域で７℃以下だったため、水塊深度は算出できなかった。

３月の津軽暖流は、水温が平年より“やや低め”で、観測定線全域で津軽暖流水※が認められないなど、極めて弱勢になったことが示唆された。

※　津軽暖流水：花輪・三寺の水塊分類法（図４）による津軽暖流水で塩分33.7～34.2psu、水温５℃以上、密度（σｔ）24.0以下で規定される。

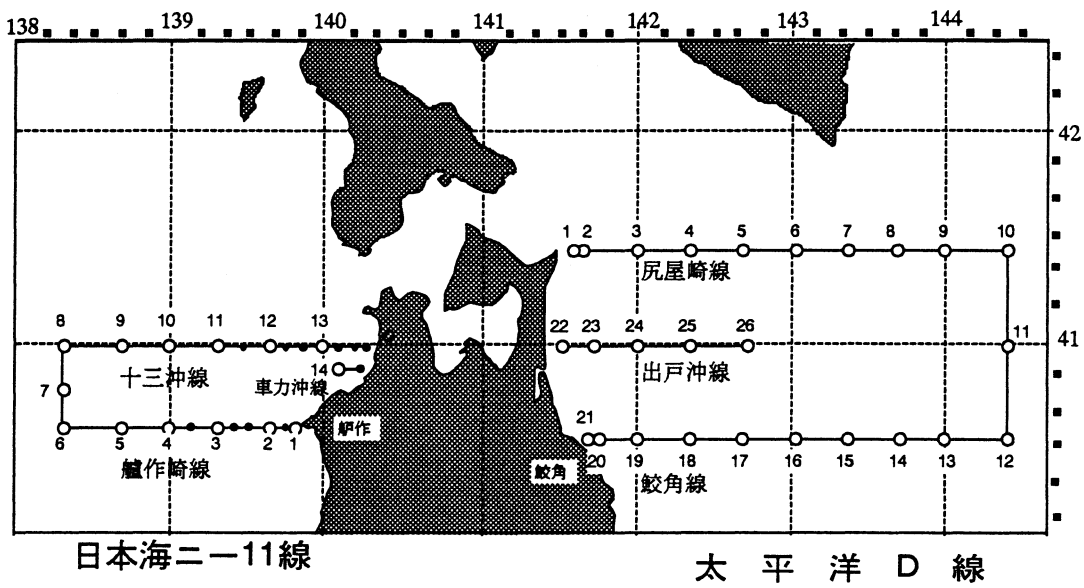

図１　太平洋および日本海の観測定線

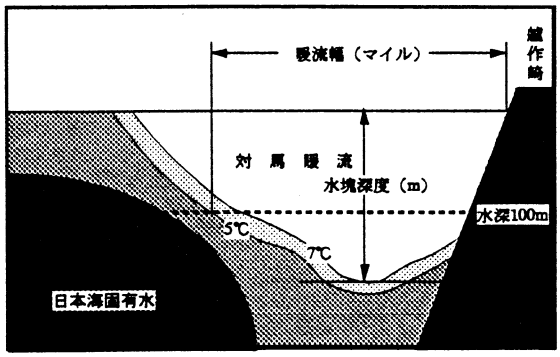

図２　艫作崎鉛直断面模式図

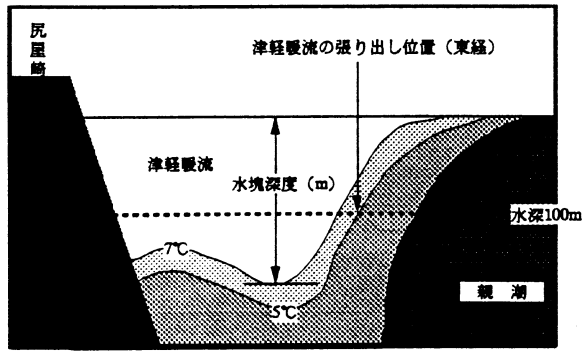

図３　尻屋崎鉛直断面模式図

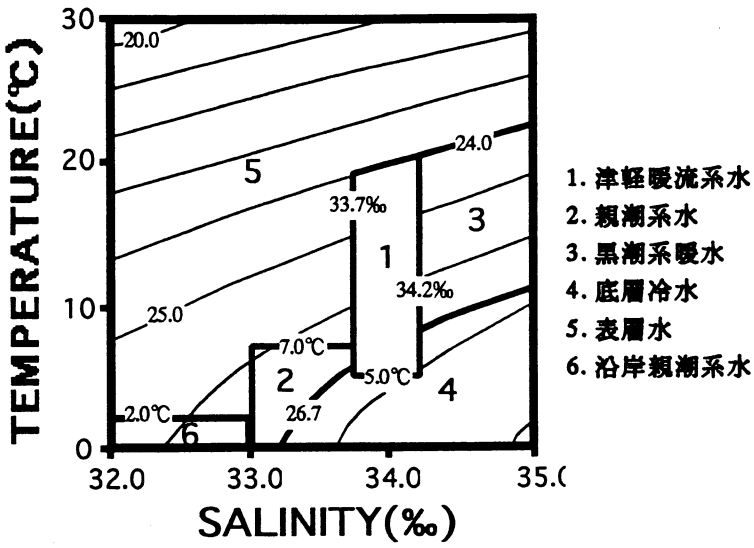

図４　花輪、三寺（1986年）等の水塊分類法

参考　平年値との比較の基準（気象庁の海面水温偏差の階級区分を参考にした。）

表　現	偏差比（標準偏差に対する割合）		
はなはだ高い	＋ 200％以上		（およそ44年に１回の発生相当）
かなり高い	＋ 130％以上	＋ 200％未満	（およそ14年に１回の発生相当）
やや高い	＋ 60％以上	＋ 130％未満	（およそ６年に１回の発生相当）
平年並	－ 60％以上	＋ 60％未満	（およそ２年に１回の発生相当）
やや低い	－ 130％以上	－ 60％未満	（およそ６年に１回の発生相当）
かなり低い	－ 200％以上	－ 130％未満	（およそ14年に１回の発生相当）
はなはだ低い		－ 200％未満	（およそ44年に１回の発生相当）